

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第4回フォーラム研究会
逐語録

(木村) それでは、始めていききたいと思います。

まずは資料に番号をつけていききたいと思います。F4-0が議事次第です。次に、前回の研究会の議事録がF4-1です。次に、前回のフォーラムのあとに皆さんにお話しいただいたことを、反省会メモという形にまとめています。F4-2です。次に、第1回フォーラムに関するアンケートの集計結果、自由記述を主に書いたものがF4-3です。次に、第2回フォーラムのスケジュール表があります。F4-4でお願いします。次に、第2回フォーラムの頭紙です(F4-5)。次に、前回の模造紙まとめになります(F4-6)。次に、ブレインストーミングの進め方がF4-7。グループワークの進め方が2種類ありますが、グループワーク1が45分と書いてあるものがF4-8、60分と書いてあるものがF4-9でお願いします。次に、模造紙の使い方を示した資料がF4-10です。次に、第2回のアンケートがF4-11。最後に、第3回フォーラムの開催のお知らせがF4-12となっています。以上が今日の配布資料ですが、よろしいでしょうか。

0. 前回議事録確認

(木村) それでは、さっそく議事に入っていきたいと思います。

前回の議事録はすでにメールでもお返ししていると思います。前回は、第1回のフォーラムをどう進めるのかということと、模擬フォーラムをやったということになります。これは第1回フォーラムの前に皆さんに共有しているものですので、今日読み上げることはしませんけれども、何かお気づきの点があれば、ご指摘いただければと思います。

今日は、第1回フォーラムの振り返りをして、第2回フォーラムについて話し合いたいと思います。

1. 第1回フォーラムの振り返り

(木村) それでは、前回のフォーラムの振り返りをしていききたいと思います。それに関する資料がF4-2、F4-3、F4-6になります。これらを見てもらって、もう一度改めて、1人ずつ反省を述べてもらって、整理しようと思います。それでは、少し時間を取りたいと思います。あの時計で13時17分くらいまで時間を取りますので、F4-2、F4-3、F4-6を見て、

もう一度反省点等と呼び起こしてもらえたらと思います。よろしくお願いします。

(各自資料に目を通す)

(木村) 時間ですけれども、いかがですか？ そうしたら、こちらからいきましょう。

—— F4-3 の Q2 の物足りなかったことに、ほとんどの方が、時間が足りなかったと書いています。私も、時間がちょっと足りない感じはしたのですね。だけど、Q1 のよかった点には、議論ができたとも書いてあるから、ああ、そうだったんだと思いました。

A 班は、意見を 1 周出すくらいで、その後の深まりを持てるほどの時間がなかったのですけれども、アンケートでは、それでも皆さん結構満足していたようで、それが意外でした。こちらが思うことと参加者が思うことはもしかしたら違うのかもしれないということに、改めて気がつきました。

(木村) ありがとうございます。

アンケートに関しては、時間以外はそれほど批判はありませんでした。

—— そうですね。市民の方のアンケートの答えが、マイナスよりプラスの意見が多いというか。

(木村) では、次の方、どうぞ。

—— 市民の方が、自分自身の原子カムラに対しての認識不足が強く感じられたとか、勉強不足とか、もっと勉強しなければという気持ちが込められている感想があったので、やる気まんまんだなと思いました。

反省は、グループワーク 2 の「なるほど」と思った意見とその理由を書き出すというほうの模造紙なのですけれども、あれは本来人数分の列ができるはずでしたね。それを、C 班では、「動かしていいですよ？」と言われたときに、いけなくはないと思って、いいですよと私は返事をしたと思うのですけれども、それで動かしたために、発表もかえってやりにくい感じになったかなと思って、動かしてもいいと言わなければよかったなと思っています。

(木村) C 班の模造紙は、整理し直しました。記録を読んで、どれがどの意見というのが見えてきたので、もう 1 回振り分けて整理してみると、実はスタイル通りに進行していたのだなと。こうなっていると本当は説明しやすかったのだろうなと思います。

—— 動かしたのが逆効果だったと。まとめようとしていたから、一生懸命動かしていたのですけどね。

(木村) それを受けて、F4-10を作ったのですけれども。模造紙に、書けるところはあらかじめ書いておいて、そこに貼ってもらうようにするといいのかなと思って。F4-10は案2のほうの模造紙のレイアウトですけれども、模造紙をどんな感じで構成していくかを共有しておいて、サブファシリテーターの方がその場でさりげなくやってしまうというスタイルにしようと思います。

—— そのほうがやりやすいと思います。

(木村) そのほうが、グループワークもしやすいし、発表もやりやすいと思います。それに、他の班との比較もしやすくなるので、そういう形だけは最初に作ってしまっておくというのはひとつの手かなと思って、案を出したところです。ありがとうございます。

では、次の方、お願いします。

—— 市民の方のご意見で、専門家のお話が聞けてよかったとか、自分の中に気づきがあったということで、やはりこういう話し合いをすることがすごく新鮮で、得るものが多いと感じたからこそ、余計に時間が足りないと感じたのではないかと思いました。

あと、市民の感想で、Q2の「落としどころはないのでしょうか」とか、あるいは、Q8の「ルールが多いために、どういう方法でコミュニケーションをすればいいのか、どのような内容のコミュニケーションをすればいいのか、のどちらで研究が行なわれているのかな？」と感じました。あるいは、そういうことを気にせずに話をするといいのか、少し迷いました」というものがあるのですけれども、やはりこのフォーラムの目指すところの意図が呑み込めていないというか、呑み込んだつもりでも、いざグループワークが始まってワットとなると、もう分からなくなってしまうというか、そういうところがあるのかなと思いました。

F4-6については、模擬フォーラムでだいたい頭の中が整理されたつもりでしたが、実際には時間がずれてきたり、最後に「並べ替えてもいいですか？」という質問があったときに、自分の中でも混乱してしまうところがあったなど。いくら準備したつもりでも、現場に臨むとまた変わってしまうものだなということを実感しました。

(木村) 研究の意図に関して、目的が分からないというコメントは、昨年度に比べたら大幅に減りました。昨年度の第1回は、何をやればいいのか分からないという声ばかりで、第2回で時間を取って詳しく説明せざるをえなかった。今回は、それをする必要はないかなと思います。ただ、前回ホワイトボードに貼っておいた、フォーラムの目的などは、

毎回最初に確認するプロセスは入れようかなと思っています。それを通して、少しでもこういった意見が減っていけばいいなと思うのですが。

研究のことを気にしてくれているというのは、別にそこまで考えなくてもいいけどと思いつつも、

(前参加者) 去年とは大違いで、余裕があるなと思います。去年はそんな余裕はなかったですから。

(木村) では、次の方、どうぞ。

—— 専門家の方のご意見に議論の時間が足りないというものがあって、専門家の議論をしたい、話し合いをしたいという気持ちがここに表れていると思います。でも、市民の方は、そのひとつ手前の、言葉が分からないときに「分からない」と言える関係になるとか、正しいものを知るとか、そういうことを思っているのではないか。だから（専門家の方には）もう少し我慢してもらって、そこに気がついてくれるといいなと思いました。

あとは、反省会するときにも言いましたが、グループワーク 2 のときに、皆さんで、どういうふうに発表するのかを事前に話し合ったのですよ。そのときに、まずは全体について話して、次に、特にここで紛糾しました、というふうに話しましょうと言って、発表者も「はい」と言ったのに、実際に発表したときは、紛糾したところだけを言って、終わりですとおっしゃってしまったのです。あがっていて、そうなったのだろうとは思うのですけれども。あらかじめ、その班でどういう流れで話をして、特にここが盛り上がりました、みたいに発表にしてください、と説明するなり、何かしないと。前回は、そこで引っかかってしまったのではないかと、思いました。

それから、宿主さんが 2 人いましたけれども、移ってきた方が質問をするときに、深く聞かれたものですから、自分の思い込みで答えてしまったのです。附箋を書いた人はそこまで言っていないのに。そのときに、サブファシリテーターの対応としては、そこは話し合っていないよねと言うのと、もう 1 人宿主さんがいるので、そこはどうでしたっけと話を振ると、2つのパターンがあるだろうと。これは後で話し合ったことですが。

最後の全体共有のときも、誰かから質問をもらったときに発表していた人が戸惑っていて、そこはどうだったかなと思いつつも話し始めてしまったので、私はパッとそばに行って、それは話し合っていないと思いますよとつい言ってしまったのですけれども。

その班の人に振って、皆さん、これは話し合いましたか、どうでしたか、みたいに、その人にだけ全部回答させないような感じにしたらいいかかなと。

—— 全体共有は総合ファシリテーターが仕切っているのだから、総合ファシリテーターのさじ加減でそういうことはできると思うのですね。

だけど、前回は、質問が出なかったときに、もう時間もなかったのに、総合ファシリテーターが質問をしてしまって、また時間が延びるという感じがあったと思うのです。今、指摘されたように、説明が不十分だと思われたら、そこを十分に説明させるように総合ファシリテーターから持っていき、例えば、発表者があがっていて駄目そうだなと思ったら、ファシリテーターに振るとか、宿主さんに振るとか、何かその班に長くいる人に振って、もう少しそこを説明してください、みたいな感じにしたほうがよかったと思うのですね。

—— そうですね。それを、中にいるサブファシリテーターがこそこそ言うよりも、外の人から指摘してもらったほうがよかった。

—— 発表する前に、総合ファシリテーターが、全体の流れとポイントを話してくださいと毎回言わないと、発表する人が自分の考えで話してしまうのですよ。変にまとめようと思ってしまって。「そのグループで話し合われた全体をまず話してください。そして、どこに議論が集中したかをお願いします」と言えば、それに沿って話をすると思うのです。

—— 議事録案のグループワーク 2 のところに、宿主によるグループワーク 1 の説明が明らかに間違っている場合はサブファシリテーターが訂正するけれども、可能な限り控える、と書いてあるから、それを少し応用すればいいのではないかと思います。全体共有のところも結構よく書いてあると思うのですね。

—— Q2 の、グループ発表に対しての説明力不足という意見は、今おっしゃったことに該当しているのかもしれませんが。

—— それは、まとめようとした人の話だと思います。

(木村) そうですね。まとめようと思ってまとめきれなくて反省して書いているのだと思います。

ただ、それをサポートするのは総合ファシリテーターであり、内部であったらサブファシリテーターだったのかもしれませんが。

—— 会話しているときだったら私たちでよかったから、宿主が 2 人いたので、もう 1 人の宿主さんに、そこはどうでしたっけと振ればよかったなと反省したのですけれども。

(木村) 第 2 回フォーラムは、全体共有が 2 回あります。第 1 期と同じ感じで、最初にディスカッションをして、発表して、質問を受けて、質問に対して回答を作るという 2 段階構造にしています。基本的に 1 回目の全体共有のときは質問なしなのです。けど、

ここで明らかに足りないなと思った場合には、総合ファシリテーターがフォローしたほうがいいですか？

—— でも、総合ファシリテーターはグループでどんな話をしているか知らないですから、ピントがずれる場合がありますよね。

(木村) そうなのですよ。そこがちょっと怖い。

それなので、発表者 2 人体制にするというのはひとつの手かなと思って。まあ、機能しないのですけどね。だけど、1 人よりは 2 人でやってもらって、どちらかがしていなかったら、

—— 宿主がいいですか？ 私は、フォローするのはファシリテーターのほうが良いと思うのですけれど。宿主は、自分が発表すると思って聞いていないですから、無理だと思います。ファシリテーターは、仕切るから、全体は分かっているのですよ。

(木村) なんか、ファシリテーターに全部行くとファシリテーターが可哀想だなと思うので、

—— その前に、第 2 回フォーラムはグループを変えるのですか？

(木村) 変えません。

—— そうすると、宿主はそもそもいないですよね。

—— ああ、そうか。

—— では、発表者 1、発表者 2 にしますか。

(木村) そのほうがいいですか？ それとも、発表者は 1 人にしておいて、ファシリテーターにフォローをお願いしますか？

—— グループワーク 1 とグループワーク 2 でファシリテーターは変えますか？

(木村) 変えます。

—— 変えるとしたら、あとは発表者、発表者、フォロー、フォローにするか。それとも、

6人全員に割り当てることもできますけれども。ファシリテーターが2人、全体共有1の発表者が2人、全体共有2の発表者が2人。どうしますか？

(木村) どちらがいいですか？

—— 「発表者」と言われたら、意識しますか？

(前参加者) します。

—— あとになって、宿主さんがフォローしてくださいと言っても、駄目ですよ。

(前参加者) それは分からなくなります。

(木村) では、発表者2名でやってみましょう。それで、1人しか話していないようだったら、総合ファシリテーターが、もう1人のほうに、どうですかと促す。これなら変な誘導もないし、いいですかね。

—— 前回の班構成の中で、発表者は2名当たっているはずなのですからけれども、もう1人は何をしていたのでしょうか？

—— 発表者？ 宿主でしょう？

(木村) 宿主も発表者も2人ずついました。

—— え？ そうなのですか？ 知らなかった。

(木村) 宿主が2人、発表者が2人です。C班は5人だったので、発表者は1人だと思いますが。最後の発表は、市民1人、専門家1人で発表できるように組んでいたのです。だから、全体共有は、本当は4人で発表することになっていたのです。

—— でも、B班もいなかったでしょう？

—— B班は、発表者が2人いることをちゃんと分かっていたよ。片方がメインで、片方はサポートをお願いします、という発言があったので。

—— サブファシリテーターが分かっていたのですね…。

—— まあ、発表は、2人体制でいきましょうか。

(木村) はい。2人にして、1人しか話さないようだったら、総合ファシリテーターが、もう1人からもお話を聞きましょうと振る。これを徹底しましょう。

—— とりあえず、ホワイトボードの前に2人に出てもらいましょう。そうしないと、総合ファシリテーターが分からないですから。とにかく2人を前に出す。

(木村) それが必要ですね。では、そうしましょう。

—— もしかしたら半々で発表するかもしれないし。

(木村) はい。半々だったらそれでいいわけですね。では、発表に関してはその方針でいきましょう。

では、次の方、お願いします。

—— 先ほどの話がまさに反省でございました。発表者が2名いるとは思いませんでした。すみません。

市民の方の中は、コミュニケーションとか、社会的経験が少ない方がおられ、最初はいろいろと戸惑ったり、大変だと思うのですが、研究という面から見ると、そういった方が5回を経てどのように成長していくかというのもひとつの成果なのかなと思います。一生懸命勉強しようという意思がある方も多いようですので、今後に期待したいと思っています。

それから、時間がずれたので、時間割の指示や、タイムキーパーとの連携をもう少し的確にさせていただけると、私たちももう少し早く気がついたのではないかという思いがあります。結局、グループワーク2は、時間が押し押しになってしまったんですね。ファシリテーターの方がちゃんと時間通りに収めてくれたのですが、やはり議論が深まらなかったのが残念です。

それから、Q4のコミュニケーションのステップの到達度を見ると、やはりまだ1、2、3の段階が多い。これは1回目だからそうなのかなという感じです。以上です。

(木村) ありがとうございます。

コミュニケーションのステップについては、竹中君からコメントがあるのではないかと思うのですけれども。

(竹中) うーん。まだ1回目なので難しいなと思っているのですけれども。

では数字のところからコメントすると、やはりこのアンケートの聞き方が難しいなど。「自分が変わろうとする」の中に、説明不足を感じだとかそういう話が入ってくると、第1期と同じような方向になってしまう。そこは難しいところだなと思いますけれども。とりあえず、この1、2、3について、最終的に皆がそう思ってくれればいいなと思っています。

(木村) これに関しては、「特になし」と答えている方が1人います。

(竹中) そこは要チェックですね。

まあ、1回目なので。こういうことを聞かれるということが分かったら、2回目からは意識してくれることもあると思うので、2回目が楽しみです。

あとは、模造紙のほうを見ると、第1期は「原子力ムラが何なのかよく分からない」という人が多かったと思うのですけれども、今回はあまりそういう市民がいないのですね。原子力への態度は一般に合わせているけれども、完全に一般的な人の集まりではないということは、どこかで意識しながらやったほうがいいのかなと思います。といっても、別にやることを変えろとかそういうわけではないのですけれども、頭の片隅に置いておこうかなど。以上です。

(木村) 分かりました。では、次の方。

—— 記録の立場ということで、少し毛色の違う意見になると思います。

先ほど、A班とC班の発表が変な感じになってしまった、という話がありましたが、それに関しては皆さんがおっしゃった通りだなと思います。C班に関しては、「グループワーク1とのつながりが見えない」というコメントが参加者からあったと思うのですが、皆がこういう意見を言っていましたというところを飛ばしてしまって、最後にまとめた部分だけを発表してしまったから、ああいう印象になったのかなと思います。それに関しては、先ほど木村先生が提案されたように、まとめ方の粗い筋道を模造紙で示しておけば、ある程度解決するのかなと思いました。

あと、小声に対する注意を払っていただければありがたいなと思います。聞き取りにくい声というのはどうしてもあるので、しっかり話してもらおうということと、サブファシリテーターさんからも、小声で話していいんだという雰囲気を出してほしくないのですね。

—— 小声というのは、参加者が小声で話すということですか？

—— 全員ですね。サブファシリテーターも含めて。その場に8人いるのかな、8人のうちの7人が、1人の話を聞いている、という状況を常に作ってくれるとありがたい。それが理想です。4、4に分かれてしまったり、2、6になってしまうと大変なので。まあ、最後にま

とめるときはごちゃごちゃしても仕方がないと思うのですがけれども、普通に話しているときはそういうことなるべくないようにしたほうが、グループワークとしても、「あれ？今何をやっているんだっけ？」ということもなくなると思うので、そういう感じでやっていただけるといいかなと思いました。以上です。

(木村) あと、ついでに付箋の話もお願いします。

—— F4-6の話ですけれども、一番典型的だったのは、Bの2/2に「当事者としての意見」という付箋がありますが、これは録音を聞いていると、「私は当事者じゃないので、そのことを前提として理解してください」と言っていたのですね。「当事者としての意見ではない」が正しい書き取り方、ということです。「ではない」とおっしゃっていたのですけれども、話が長かったこともあって、その部分だけを拾ってしまったのではないかなと。

—— でも、本人に確認しているのでしょうか？

—— 一応そうですね。ええと、「当事者としての意見ではない」が正しいのですね？

—— はい。

—— どういう意味なのですか？

—— あまり覚えていないのですけれども、福島のこととか、いろいろ考えないといけないよね、でも、私は当事者じゃないから、あまり知ったようなことは言えないけどね、みたいな意味で言ったのだと思います。

—— だとしたら、「当事者」だけでは後で読んで分からないですよ。「福島の人ではない、当事者ではない」みたいに書かないと。

(木村) ええ。こういう書き取り方をしてしまうと、あとあと変な残り方をしてしまうので、注意をしてください。

—— あと、これは反省会で皆さんがおっしゃっていたと思うのですけれども、模造紙に「原子カムラとは何だろうか」と書かなかったことも影響していたのかもしれませんが。

(木村) そういうこともあったので、今回は、模造紙は先に書いて、置いておいてあげる、というふうにしようかなと思います。

日本語って、最後の最後の最後に否定を入れたりするので、そこを間違えると大変なことになります。

—— そうですね。だから、キーワードをパッと書き始めてはいけないのです。最後にひっくり返る可能性があるのです。

—— でも、最後までずっと聞いてからと思うと、最初に言われたことを忘れてしまうのですよね。キーワードって難しいですよね。

—— だから、私は、途中で書き始めて、これは違ったとって棄てたりしています。よくやります。

(木村) これで他の人に変な影響が出ると面倒ですし。ただ、記録は記録なので、ここだけ改ざんするわけにもいかないし。

—— でも、サブファシリテーターが拾ったキーワードなら変えてもいいのでは？

(木村) 確認をしているので。

—— 当事者なのか、当事者ではないのかでは、全然違うじゃないですか。

(木村) だから、ここだけ読むとよく分からないのですね。

—— タイトルが「ギロンすべきこと」になっていて、「当事者としての意見ではない」、ちょっとよく分からないですよね。

(木村) この付箋は、別に書かなくてもいい付箋だったのですよ。

—— そういうこともあって、私は今回あまり書かなかったのですよ。だって、関係のない話をいっぱいするじゃないですか。だから、本当に書くものがなかったのですよ。

(木村) 難しいですね。

—— 申し訳ありません。

(木村) 申し訳ない、ではなくて、これは非常に難しいことなので、頑張ってください。

大変だと思います。

あとは、Cの2/2で、「放射能の問題について、学者にも否定的な意見がある」という付箋がありますが、ここは、実は同じ話をどうもサブファシリテーター2人がそれぞれ書いて、両方貼ってしまったようです。元々は、「学者にも批判的意見がある」「放射能の問題（健康問題）について、学者間に対立がある」の2枚が貼られていたのですけれども、同じことが書かれていて、両方とも貼ってしまっているのです。どちらかは削ってよかったです。なので、それに関しては削りました。まあ、これはだぶっているだけなので、いいのですけれども、こういうのが出てくると、紙面を覆ってしまうので。

—— そうなのです。第1期はそうは思わなかったのですけれども、数じゃないのではないかなと思います。

—— ただ、それは難しくないですか？ 例えば、ちゃんとしたポイントのある意見を言った方の意見はどんどん拾って、だらだらしゃべっている人の意見は拾わないというふうにすると、私たちが選んでいると思われるかもしれない。

—— いや、本人がちゃんと書いてある場合が多かった、というのもあったのです。それはやはり活かしたほうが良いと思うから、ちょっと足りないものをそこに追加する程度で、改めてこちらがわざわざ書かなくてもいいのではないかという気がしたのです。

（木村） ただ、第2回は意見交換の時間を長く取る予定ですので、その間は、サブファシリテーターさんが書くのですね。大変だと思うのですけれども、ゆっくり進めてもらうように注意してもらいたいです。そうでないと、行ったり来たりして、よく分からないうちに変な展開をしてしまうので、やはり整理しながら進めていく必要があって。なので、ゆっくり落ち着いて、と書いたのです。サブファシリテーターさんの調子も見ながらやってくださいとは言いつもりですけれども。

—— 私たちが拾っていて、追いつかないときは、ちょっと止めてもらうというか、

（木村） ええ。ファシリテーターさんに、もう少し記録の時間を下さいと言ってくださって構わないと思います。

—— その間にファシリテーターさんが、自主的にグルーピングするなり、軽くあらすじをまとめるなり、そういうことをやってもらうと一番いいですね。

（木村） そうですね。まあ、それを望むのは大変ですが。

—— それをサブファシリテーターが提案されたらどうですか？

—— そういうふうに言って大丈夫ですか？ 誘導していると言われると困るけど。

—— でも、それは誘導することではないから。

—— では、書く間に今までのところを振り返ってくださいとか、それくらいだったらいいでしょうか？

(木村) そのくらいはいいと思います。

—— 前回どうしようかなと思ったのは、これはどういう意味ですか、みたいなやり取りがほとんどだったのですよ。新しく何か話し合いをしているというよりも、キーワードを書いた付箋に対して、これはどういう意味ですかとか、そういうやり取りのほうが多かったのです。そのときの会話は、わざわざ拾う必要はないですよ？

(木村) そこまでは拾わなくていいと思います。明らかに分からない「ゲゼルシャフト」とかは書いたほうがいいですけど。

—— 席が変わったので、宿主さんの説明に結構皆さんが質問したのですよ。そこが長かったのです。

—— だから、後半あまり深められないうちに時間が来てしまったのですね。

—— そこで出た質問は、書く必要はないですよ？

(木村) これは書いておかないとあとで分からないな、というものは書いたほうがいいと思いますけれども。

長くなりましたが、もう大丈夫ですか？ では、次の方。

(前参加者) ぶっつけ本番でタイムキープは大変でした。うちに帰って調べたら、ちゃんと携帯にタイマー機能がありましたから、今度は大丈夫です。

(木村) タイマーはありますよね？

(前参加者) 感想としては、去年とはまったく違うなど。市民側の意見がまとまっているというか。きれい。去年は、もっといろいろな意見が出たような気がするのですね。

最後に専門家の方があまりギャップを感じなかったとおっしゃっていましたが、甘いな、と思いました。まあ、これからいろいろ出てくると思うのですけれども。

やはり1年違うと、人が変わると、こんなにも違ってくるのかという感想を持ちました。

去年は参加者以外の方がいっぱいいると感じたのですが、それが今回はなかったのが、怖いという気はします。人間はそんなものなんだろうな、と思いながら。

市民の方のよかったと思う点は、専門家に会えた、話が聞けた、というものが多く、私もそうだったので、そこは同じだなと。時間がなかったというのは、もっと突っ込んだ話をしたかったのではないかと思うのですね。それで、もっといろいろ話を聞きたかった。それで時間が足りなかったと言っているのではないかと思うのですけれども。そういう気持ちは、去年の我々と一緒だなと思いましたが、なんか、今年はとてもまとまっているような気がしています。

次回からどういうふうに展開していくのか、楽しみです。

(木村) そうですね。

アンケートを見る限り、原子力に関する態度がすごく変わったかということ、全然変わっていないのですけどね。相変わらず、利用したいという人と、どうしようかなという人と、廃止といっている人が、結構バランスよく入っているのですけどね。

(前参加者) それは去年と変わらないのですか？

(木村) そこはほぼ変わりません。なので、やはり話し合いができる、できないというのは、そういうことではないのでしょうかね。

(前参加者) そう思います。

一般の方にとっては、専門家と話すということは、まず日常生活の中ではあり得ない。会うこともない。それが、会えてお話をできたというのはとても大きいことなのではないかなと。だから、余計に、5回しかないフォーラムを大事にしてもらいたいなと思いました。

(木村) ありがとうございます。また次回お願いいたします。

(前参加者) もう1回シミュレーションをしてみます。

(木村) あと、この前キッチンタイマーがなかったですが、少しうるさいですけれども、やはり持っていったほうがいいと思います。

—— 持って行ってあったのですけれども、打ち合わせのときに話に出てこなかったの
確認せず、すみません。

—— アンケートの中に、専門家の方と話せるのはこんなにもすっきりするのかと思いま
した、というご意見がありますけれども、私がちょっと怖いなと思ったのは、例えば Q3 に、
健康被害や学術的なデータ？の話をしてくださる方がいたので、話が聞いてよかったとか、
割と、専門家が言ったことを信じてしまうというか、その人の言ったことがそのまま全部
本当だというふうに受け取る方がいるなと感じたのですね。

(前参加者) それは去年とは違いますね。私もそうだけど、去年の市民は、ちょっと引
きながら聞いていたので。そのまま鵜呑みはしていなかったですね。

—— ちょっと危ないなと思ったのですけど。

(木村) これから変わるかなという気がするのですね。素直によかったと手放しで言っ
ている人はそんなにいないので。むしろ、「ああ、専門家は専門家だな」という意見もある
ので、大丈夫だろうとは思っているのですけれども。そういう人たちの中でやっていくと
どうなるか、これからだろうなと思います。

—— 先ほど言い忘れたのですが、Q3 で、市民と専門家の両方が、「議論の前提が違っ
ていることに気づいた」と書いています。去年はこういう意見が出た記憶がないのですが、
今回はこういうふうに両方から意見が出ているので、手放しで信じてしまう人もいるかも
しれないけれども、そうでない方もいて、いいのではないかなと。これから議論が深まる
と、いい感じになるのではないのでしょうか。

(木村) そうですね。竹中君、去年は議論の前提が違うという意見はありましたか？ ま
あ、こういうキーワードが出たので、意見が出ているのだと思いますけど。

(竹中) 議論の前提が違うというのは、どういう文脈で出てきた話ですか？

(木村) それは、記録を出したので、読んでみてください。

(竹中) 読んでみますが、そんなに違いましたっけ？

—— 付箋が出ているところの記録を読んでください。

(木村) では、時間も結構押しているので、行きましょう。

—— Q3に、質問の際、意見がまったく対立してお互いに引かなかった場面があった。議論の内容をぜひ反映してほしい、という意見があります。これはなかなか重いと思うのですが、具体的にはどういうことなのでしょう？

(木村) このご意見は、意味がよく分かりません。

どこかの班で、イデオロギーの対立になると衝突しちゃいますよね、なので、今後の展開として、話し合いをどうやって進めていったらいいかを話したいですね、という話がありました。おそらく、そういう話だと思います。

議論の内容をぜひ反映してほしい、の意味は私には分からないのですけれども、話し合い方も少し工夫をしてほしい、ということだと思います。

—— そう思うのですが、具体的にどういうことをしなさいと言っているのか分からないから、

(木村) 反映のしようがないので、仕方がありません。

—— 議論の内容をぜひ反映してほしいと言われても、難しいですよ。

—— うーん、グループワーク 2 はグループワーク 1 を踏まえてやるはずだったのでは、という意見なのかなと私は思うのですけれども。

—— まあ、想像していても仕方がないので。

2つ目は、F4-6のBの2/2なのですけれども、「差別というのは専門家のみ」という意見が、なぜ一番下の「信頼関係が大切」につながるかが分からないのですよ。

—— うーん。記録を読んでみてくださいという話だと思うのですけれども。

—— 矢印を書いた方は、全体をまとめようとしてくれた別の人なので、そのつながりは、その人の判断で矢印を結んでいるだけです。最後のまとめをした人がそう思ったということです。

(木村) 最後のまとめで、ザザッと矢印を引いていましたね。

—— でも、1人が書いたというのは、本当は駄目ですよ。まとめはグループで共有してから発表されるものなのだから、やはりそこで、「皆さん、これでいいですか？」と確認を取らないと。

—— 3つ目は、「医学界は閉鎖的だったが改善された」という意見があるのですが、本当に医学界は閉鎖性がなくなったのかなど。

—— グループワークでそういう話があったということだから、それが事実と違うかどうかをここで議論しても仕方がないでしょう。

—— 「本当に閉鎖性はもう直ったのですか？」という問いかけが班の中であってもよかったのではないかと思うのですけれども。

—— その辺りは記録を読んでください。

(木村) では、次の方。

—— 第1期の第1回の模造紙は、本当にいろいろな人がいろいろなことを考えているものが全部並んだ。そういう意味で、ブレインストーミングとしては成功だったと思います。「分からない」という意見から、こう思うという意見まで、非常にバラエティに富んでいました。ところが、今年の模造紙を見ると、非常に狭くまとまっていて、時間が足りないという意見がたくさん出ていることと関係があるのかもしれないけれども、ちょっと物足りないですね。

—— 市民の方は、おとなしいというか、グサッと言わない感じの方が多いですよね。慎重にものを言っていると思います。例えば、内心原子力なんてこりごりで、やめたほうがいいと思っけていても、それをストレートには言わないで、おとなしく専門家のご意見も拝聴して、他の人のご意見も拝聴して、それから小出しにするような感じがあると思ったのですけれども。

(前参加者) 今後、小出しにしてくれればいいですけれども。

—— 出てくると思いますよ。

(木村) もう少し回数を重ねてきたときに、専門家がちゃんと言えられるようになるか、市民がどんどん話してくれるようになるか、その辺りですよ。まだ1回目なので、おとな

しかなかったのは様子見かもしれないと思っているので。これからかなと思います。

では、次の方。

—— 私は、アンケートの Q3 に、自分たちが考える壁を、市民、専門家のそれぞれが出しているのかなという感じがしました。前提が違うとか、議論の内容云々とか、目線が違うとか。ここでだいたい参加者が考える概念が出ていると思いました。

それと、専門家の若い方は、遠慮しているような感じがしました。

—— あと、物理的に、自分が口火を切ったら、言いたいことはこんなにあるから、時間が足りなくなってしまう、という思いもあったのかもかもしれません。

—— 皆さんお行儀がよかったですよね。時間もある程度守ろうとされていたし。

(木村) では、次に行きましょう。

—— Q3 に、市民側からは説得力ある説明を行える専門家が多く見受けられるが、強すぎる方もいる、いろいろ専門家もいるんですね、という意見があって、専門家側からも、様々な意見が聞けて良かったという意見があって、第1回としては良かったなと思いました。

(木村) では、次の方。

—— 私の反省点は、まずは時間管理がうまくいかなかったことです。

それから、先ほどのキーワードの取り違えが指摘されて良かったです。申し訳ありません。次回から頑張ります。

今回は、第1期よりも参加者の皆さんの口が重いというか、あまりポンポン意見が出なかったのですね。ブレインストーミングですから、たくさん意見を出してくださいと申し上げても、ちょっと遠慮しているような感じがしました。

それから、専門家だけが話している場面がしばらくあったのですね。それを、そのままではいけないと皆さん気がついたようで、市民の方も交えて話すモードに戻ったのですが。たぶん、班のメンバーの中で、「ああ、この人に反論すると話し合いが進まないな」という雰囲気があったのではないかと私は思いました。その方の意見に遠慮しているというよりは、流れを止めないためにスルーした場面も何回かあったので。そういうこともあるのではないかと思います。

それから、若い方があまり意見を言わないという話がありましたけれども、第1期も若い専門家の方はほとんどお話にならなかったのですが、その方よりは話しているかなという印象です。

—— やはり専門家は一般の人と会話をする機会がきわめて乏しいから、ムラの住人は特にそうだと思いますが、仕事に忙しいのだと思います。やはり慣れていないのでしょうか。今後観察していくには面白いかもしれない。

(木村) そうですね。今後どうなっていくか。

—— すみません、簡単な確認なのですけれども、Bの1/2の2-10の付箋は、どういう意味ですか？

(木村) 人の名前です。

—— 人の名前を書いたのですか。これは、何か付け足さないと、これだけ見ても分からないのではないのです？

—— 参加者が、こういうふうにお書きになったのです。

—— ムラをこの人が象徴しているということです。

—— ああ、この人に象徴されているという意味で人名を書いたわけですか。それは、もう少し、見た人に分かるように付け足すというのは？

—— 書かないほうがいいですよ。本人がこう書いたのだから。

—— では、次ですが、専門家で背広を着ていた方がいましたよね。もしまたあの恰好でいらっしゃったら、上着だけでも脱いでいただけませんか、と受付で言っていた方がいいと思います。皆さん割とラフな格好でいらっしゃったので、1人だけ固いと思ったので。

(木村) 今回は、案内に普段着でいらしてくださいと書いたのです。

—— ただ、お仕事で必要なのかもしれないので、着てこないでくださいとは言えないのですが。ちょっと堅苦しいので上着だけでも脱いでいただけますか、と受付で言っていたけるといいかなと思います。

—— 2-10が、市民ではなく専門家の意見であることを、私は興味深く見ていました。市

民がこういう意見を書くのは、そういう報道がされているから、違和感がないのですが。

—— そこに関して注意点で、この班のファシリテーターは、進め方を読まずに、「キーワードを書いてください」と言っていました。なので、キーワードだけが端的に書かれている付箋が出ているのですけれども、キーワードだけ書いてくださいなんてどこにも書いていないわけじゃないですか。なので、そこはサブファシリテーターの方から、これに沿って進めてくださいというふうに、ルールに関するところは注意してもいいのかなと思いました。キーワードだけを書かれると、後で分からなくなってしまうのではないかと。結果的には皆さんが結構書いてくれたので、分かる感じにはなっていますけれども。

—— 意味が分かる程度に書いてくださいということですね。

(木村) あとは、今日遅れてくる総合ファシリテーターさんからメールが来ています。1回目よりもグループワークの話し合いの展開はもう少しシンプルにして、参加者がファシリテーションをしやすいように設計してはどうでしょうか、という話でした。

今日のお話も、ある程度第2回の設計に反映されていると思いますので、この後はその辺も見ながら議論していただければと思います。では、ここで休憩しましょうか。14時55分まで休憩して、後半を始めたいと思います。では、いったん休憩にします。

2. 第2回フォーラムについて

(木村) それでは後半を始めます。第2回フォーラムについて話し合いたいと思います。

F4-5 から F4-9 までと、F4-11、F4-12 が参加者に配布する資料です。F4-4 と F4-10 は内部資料なので、配りません。

全体の流れも話し合いたいのですが、その前に、グループワーク1の進め方について、どちらがいいかを議論させてもらおうと思います。F4-8 と F4-9 をご覧ください。

F4-8、グループワーク1が45分のほうは、まさに第1期フォーラムの最後のほうでほぼ固定していたやり方です。最初にテーマの質問に対して意見を出して、その後フリーディスカッションをして、グルーピングをしてホワイトボードにまとめるという形です。時間は、それぞれ10分、15分、15分で40分、5分の余裕で計45分になっています。

第2回のテーマは、完全に参加者に作ってもらいました。「一般市民と専門家が考える壁の違いとは？」がテーマになります。

F4-9の、60分にしているものは、壁がちゃんと分かるように、こちらで進め方を誘導してみたものになります。読んでみますと、

1番、市民は「専門家のイメージ」を、専門家は「市民のイメージを」それぞれ書き出し

てください。3分程度を区切って、ファシリテーターも含めて各自が意見を付箋に書き、手元にストックしておいてください。1枚につき1つの意見です。意見の質にはこだわらず、たくさんの意見を書くようにしましょう。

2番、1人ずつ意見を読みながら、模造紙に貼っていきます。

3番、まず、市民から出てきた「専門家のイメージ」について、専門家が質問やコメントを自由に言っていきます。それに対して、市民も回答やコメントをしてください。ここでの発言は、サブファシリテーターがキーワードを付箋に書き出し、発言者に確認しながら貼っていきます。ゆっくりと落ち着いて話し合いを進めてください。というふうに、市民が書いたイメージについてディスカッションをするのが15分。

4番、次に、専門家から出てきた「市民に対するイメージ」について、市民が質問やコメントを自由に言っていきます。それに対して、専門家も回答やコメントをしてください。ここもサブファシリテーターが付箋に書き出して貼っていくと。ここも15分取っています。

5番、「市民と専門家の間にある壁とは何か？」について考えましょう。3分程度を区切って、意見を書く。

6番、模造紙に貼っていく。

7番、グルーピングして、一言タイトルをつける。

8番、余裕があれば見える化をしましょう。ここで15分取っています。

合計55分、5分の余裕で、60分のグループワークにしています。

前者(F4-8)のほうだと、やることがシンプルなので、後半30分はずっと話し合いをすることになります。だけど、もしかすると、問いが曖昧なので、よく分からなくなってしまうかもしれない。

後者(F4-9)のほうだと、「壁の違いとは？」というのは、記録を読んでも、どうもギャップの話ということがあるので、そのギャップをちゃんとお互いに認識して、それがどういうものなのか、「我々はこういうつもりでやっていない」とか、そういうことも言える時間も設けた上で、では壁って何だろうかということを書いてもらおうと。そういう仕組みにしています。時間も長いですが、これでも結構タイトかなと思います。

なので、どっちもどっちだなと思っているのですけれども、どちらのほうがいいでしょうか、というのが今日のご相談になります。

スケジュール表は案1(45分)のほうでまとめているのですけれども、案2(60分)のほうだったらこれが15分ずつ遅れて進んでいくということになります。

—— 案2のほうの話は進みやすいと思います。ただ、案2でやったときは、違いに着目することになるので、市民も認識しているし、専門家も認識している事柄があまり出てこなくなってしまうのではないのでしょうか。例えば、「知識のギャップがある」とか。どちらもそうだと思っていることは、このスタイルだとあまり出てこないのではないかと思います。

(木村) 出てくるとは思いますけど。ギャップを書くわけではないから。「専門家は知識を持っている」というだけでしょう。

—— でも、この話し合いの進め方だと、そこに焦点は当たっていない感じになりませんか？

(木村) そうですね？ 専門家は、「そうだね、当然だね」と思うから、コメントを言わないということですか？

—— そうです。案 2 の 3 番で、市民の「専門家は知識を持っている」という意見に対しては、それほどコメントが出ない。

(木村) ええと、まずはどちらの案をベースにするか決めないと、議論が無駄になってしまうと思いますが。

—— そういう意味では、私が言いたいのは、案 2 は、いわゆるざっくりとした感じの話し合いというよりも、かなり誘導は入っているのではないかと。ただ、話し合いは確実に進めやすいと思いますし、イメージしていたものとは違うということには気づけると思います。

—— 「市民のイメージ」は、議論する価値があるのかな。専門家のイメージを専門家がどう思っているか、市民がどう思っているか。そういう切り口でもいいのではないかと気がするのだけど。

—— 市民から見た専門家のイメージと、専門家から見た専門家のイメージということですね？

(木村) これは A 班が出したテーマですけれども、お互いがお互いに壁を作っていますよね、という話だったのです。そこに関して話したいのであって、どちらかのギャップの議論だけで終わってしまうとつまらないなと思っているのです。お互いにお互いが壁を作っていたね、となるのか、実は片方だけだったね、となるのか、どうなのかが知りたいなというところもあって。少なくとも前回の A 班の議論を読むとそうになっていたので、こういう構造にしてみたのです。

—— 私は案 2 のほうが進めやすく、皆が意見を出しやすいと思います。

45 分の案だと、強い人がいたときに、その人の流れにガーンと引きずられていくのではないかなと。この程度は枠をはめておいたほうが、テーマからずれないで、皆が公平に意見が言いやすいと思うのですけれども。

—— アンケートの Q3 を見ると、市民は専門家のことしか言っていない。自分たちのことは言っていない。専門家は、市民と自分たち、両方のことを言っている。ですから、そういうところでは議論が深まると思いますが、市民は、自分のことはたぶん言わないと思います。

(木村) それは、言う機会がない、言うものではないと思っているから言わないのであって、何かしら思っていることはあるのではないですか？

—— それが出てくれば面白いと思います。

(木村) 専門家のことだけを市民と専門家が言い合うというのは、私は対等ではないと思っていますのです。

—— 市民が自分たちのことをあまり言わないのは、その機会がないから？

(木村) ではないのかなと。で、それが、特に市民の捉え方は変わらないですよ、だったら、それはそれでいいので。そうするとやはり専門家に対してのスタンスがギャップだったのですね、となれば、専門家のスタンスをどうすればいいでしょうという議論ができるし。

(前参加者) 市民側は、分からない状態で議論していて、その中で気づいていくということがあります。気づかされる。

(木村) ああ、その中で気づかされると。

(前参加者) 進め方としては、やはり案 2 のほうが言いやすいと思います。市民側は、専門家から何か言われると、なかなか言葉が出てこないというのがあるので。去年みたいに、バーンと意見が出せる人たちがいればいいのだけれども、前回の様子を見ていると、どうも（意見が）まとまりすぎている。だとしたら、案 2 のほうが、市民側は言いながら自分で気づいていくような気がするのですけれども。

(木村) では、やはり案 2 のほうがいいということでしょうか。

案2は、グループワーク1が15分長くなるので、グループワーク2が15分縮んでいきます。少し忙しくなるかもしれないのですが、今回は3問ではなく、2問にしたので、どうにかなるかなと思って、30分にしています。

では、案2のほうで進めるということにします。

その上で、先ほどの懸念は、同意に関しては議論が深まらないということですか？ 本当はコメントを言っていくところにそれが入っている予定だけど、専門家は「これはその通りです」とは言わないかな。「あなたたちは知識がある人たちですよ」と言われたときに、「その通り」とは言わないか。

—— 言わないですよ。

—— そういう意味では、時間的には厳しいけれども、最初に「壁って何ですか？」とパッと出してもらって、その後にこの進め方でやって、最後にもう1回壁を考えると、「ああ、こういうところにも新しくあるんだね」といった感じになるかもしれない。

(木村) 最初に「壁」と言うと、何を壁と言っているか分からないと思うのですよ。

—— 「壁とは何か定義してください」とか言われたりして。

(木村) そう。そんなことをまた言われそうなのですよ。

A班がテーマ案を説明したときに言っていたことを、「目的」のところ、少し文言を変えて出しているのですけれども、「市民と専門家には、知識や考え方のギャップ、あるいは格差といったものがあると思います。そこで、まずはお互いのギャップを知っていくと言うことが大切。そうでなければ議論がかみ合わないだろうということです」。そこで、グループワーク1では、どんなギャップがあるのかについて話す、という感じにしたのです。

「壁」も曖昧な言葉ですからね。

—— 皆さんイメージが違うと思いますよ。

(前参加者) 漠然としていますよね。

(木村) ですよ。だから、最初に壁について聞いてしまうと、何を書いたらいいのかが分からないのではないかなと思うのです。

でも、最初に壁について聞けば、「知識の差」とか、そういうコメントが出てくるのではないかなということですね？ そういう付箋が貼られた上で、それぞれのイメージのずれみたいなものが議論されて、改めて壁について話すと、さらに他にもこういう壁があるので

はないかという議論ができるのではないかと？

—— そうですね。

まあ、一番気づいてほしいのは、実際のイメージと、実はそうじゃないんですよ、というギャップなので、そこに特化してもいいのかなとも思うのですけれども。ただ、この目的を見ると、別にそこだけの話をしているわけではなさそうなので。

(木村) まあ、知識にギャップがあるというのは、前提ですよ。

(前参加者) あって当たり前だと思います。

(木村) そんな気もするので、コメントが出てくるのではないかという気もするのだけど。

あとは、時間との戦いなのです。あまり細かくプロセスを入れすぎると、また時間が足りないと言われてしまう気がします。今のバージョンでも危ないかなと思っているので。

—— もう 1 つ分割してもいいかなと思ったのは、例えば右に「専門家の持つ市民イメージ」のスペースがありますよね。これに対して、右下に、「専門家はどう思われていると思うか」という欄があってもいいのかなと思いました。

ええと、この聞き方をすると、専門家からは、「市民というのはあまり知識がない人である」というコメントと、それ以外に、「市民から我々専門家はこう思われている」というコメントが混在すると思うのです。それは分けていいんじゃないかと思うのです。

(木村) え？ 市民は専門家のイメージしか書かないし、専門家は市民のイメージしか書かないのですよ？

—— いや、分かります。専門家が市民のイメージを書くときに、「市民というのはこういうものである」という意見と、「市民というのは我々のことをこう思う人間ではないか」という意見の 2 つがあると思うのです。それは分けていいと思うのです。

—— 「市民というのは、『専門家というのは難しい言葉を振り回す人たちだ』と思い込んでいる人たちだ」とか、そういうこと？

—— うーん、いや、そんな難しいことを言うつもりはなくて、専門家に 2 つの質問をすればいいと思うのです。市民というのはどういうものですか。市民から自分たちはどう思われていると思いますか。

(木村) その場合、それぞれに何分ずつ割り当ててるのですか？

—— 元々この聞き方だとその 2 つが同時に出てきてしまうので、あわせて 3 分でいいと思うのですが。

(木村) 区切ったら、やはりそれぞれに対してちゃんと話し合わないといけないのですよ。一緒にというのは結構難しいと思いますが。

—— 1 番では、お互いに相手のことを聞き合うじゃないですか。そのときに、市民は専門家のイメージがこうだと言ったら、専門家はそこで反論するなり何かする機会が 3 番でありますよね。反対に、市民はこうだというイメージに対して、市民が 4 番で意見を言い合えるチャンスがあるから、それぞれの意見が出たときに、ここで 2 つに分ける？ いろいろ反論が出たときに、逆のイメージは下に貼るとか。その中で分けられるのではないかなと。

—— それは分かっているのですが、そのやり方をやると、やはり違うところだけに集中して議論が深まっていくのではないか、ということを危惧しているのです。同じところがあったらそれはそれで理解しようということも目的にあるはずで。このやり方は、ギャップをどんどんあからさまにしていくことになると思うのです。

(木村) 1 時間以上はたぶん取れません。そのときにどのように時間を配分して、どういう工夫をすれば具体的にそれができるのか、を提案してほしいのです。

でも、あまり手続きを増やすと、ディスカッションの時間が短くなるのですよ。そして、アンケートではディスカッションの時間が短いという意見が多かったわけでしょう。そこを減らしたくないのです。

私も、最初は、市民は専門家のイメージを書いて、専門家は市民にどう思われているかを書いて、それを突き合せて、ディスカッションをしましょう。次に、逆もやりましょうという形で、20 分、20 分で考えていたのだけど、そうすると、ちょっと忙しくなりすぎるのです。付箋に書くのを 3 回やることになるでしょう。本当は、それをやると、相手に対して思っていることと、相手にどう思われているかというのを突き合せて、割と似ているのか、こんなに違うのかということも分かり、かつ、それに対して、実はこうなのですよということもできるので、それはひとつの手だとは思っているのですけれども。でも、20 分、20 分、最後に 15 分は壁について話さなきゃいけないし。結局、付箋を書いて貼るプロセスに 10 分はかかるのです。そうすると、その後のディスカッションは 10 分で、その違いと、さらにはそれに対する弁明まで話し切れるかということ、厳しい。それなので、そこ

は置いておいて、どう思われているかという情報のほうが重要かなということで、こういう設計にしているのです。

でも、言っているのはそういうことですよね？

—— そうということです。

(木村) それを一緒にしてまとめちゃうと、逆に意味が分からなくなる。やめたほうがいいかなと思っているのですよ。

要は、附箋を書くときに、2種類のことを考えてやらなければいけないので。それに、シンプルな問いかけにしないと、思い違いをしているとその3分間が無駄になってしまうので。

—— そうなのです。意外と難しいですよね。理解がちゃんとできていない場合がある。

(木村) どうせやるなら、ちゃんと2つに分けないとできないのです。それで、議論時間が10分、10分になるよりは、15分、15分にしておいて、その中で「自分たちはこういうふうに使われていると思っていた」とか、そういう議論が出てくれば御の字かなと思っているのですが。

—— そのときに、自分はこう使われていると思ったのに、聞いてみたら違いましたとか、こう使われていると思っていたけど、やはりそうでしたとか、そういう意見が出ますよね。

(木村) ではないかなという期待があるのですけれども。

—— 専門家の人は、そういうことを意識していると思います。でも、市民はどう見られているなんてほとんど意識していないから、どう見られているかと問いかげられると、戸惑うと思います。私も、今、どう答えようかなって思ったから。

—— ここで言う「市民」というのは、フォーラムに参加している市民を指しているのですか？

(木村) まあ、周りの人も含めてということでしょうね。

—— そうすると、専門家も市民ですよね。

(前参加者) そうだけど、やはり違いますよ。

去年感じたのは、専門家の人たちは、どう思われているかということ強く意識している。でも、市民は、そんなに意識していないですね。

(木村) まあ、期待しているほどは出てこないというのがグループワークするときによくあることなのですからけれども。

シンプルな導入にしないとそもそも分かりにくいということと、ディスカッション時間を増やすギリギリのラインだとなってしまうかな、という感じです。

—— 市民のイメージの議論って新鮮ですね。

—— ノーマークですよ。こう来るとは思っていないだろうし。

—— 専門家はなんとなく書きそうな気がするけれども。市民の人が市民のイメージといわれたら、書くのに苦労するでしょうね。

(前参加者) 苦労すると思います。そんなに意識していません。

—— このあいだのデータでは、市民は市民団体をあまり信用していないのですよね？

(木村) はい。

—— まあ、市民と市民団体ではまた違いがあると思いますが。

—— そうですね。自分を棚に置いて、そういう団体とか、反対している人とかのイメージを書いてしまうと思います。

—— 専門家が持っている「市民のイメージ」というと、経産省の前に座り込みをしている人たちとか、そういうことを書くんじゃないかな。

—— どうでしょうか。過激なことは書きにくいのですか？ そうでもないですか？

—— でも、フォーラムに来ている人たちのことを言っているわけではなくて、一般的なイメージとして書いてくださいと言っているわけだから。

—— 市民に対して専門家のイメージを聞いたら、「私たちのことを馬鹿にしている」とか、そういうことを平気で書けると思うのですけれども、逆に、専門家が、「あいつらは何も分

かっていない」と書けるかという、書けないのではないかと、思って。

——そこは表現を工夫してもらって。

(木村) まあ、書いてもらわないと。

——本音で書いてくださいね、みたいな。

(前参加者) 素直に書いてください、でいいと思います。
それから、進め方はシンプルにしたほうがいいと思います。

(木村) 私はいま「同意点が議論されないのではないか」という懸念のイメージがつかめていないのだけど、それは具体的にはどういうイメージなのですか？

——「確かにそうですよ」という意見が出にくいのではないかと。この意見があるけれども、私たちはそうではないのですよ」というコメントは出てきても、「ああ、こういう意見は確かにその通りですよ」というコメントはそんなに出てこないのではないかと。

(木村) スルーと同意の区別がつかないということですか？

——そうですね。それをあまり明示的にはしないじゃないですか。

——自分が言われているのではなくて、一般的にそう言われていると思ったら、「いろいろな市民がいるから、そういうふうに思われているのも分かる」という話はできますよね。

——「でも、私は違うんですよ」とか。

——ええ。自分はそうではないけれども、「ああ、なるほど、そういうふうに思われている市民もいて当然ですよ」というのは、思い描けますよね。

——頭の中には出てくるでしょうが、口には出さないのではないかと、という懸念です。

——遠慮するということですか？

——いや、それを話す必要があると皆があまり思わないのではないかと。

(木村) でも、それは話し合いの前提ですよ。それを言ったら、違うと思っても言わないことがあったらどうしようもないし。

—— 皆話し合いを楽しみに来ているわけだから、1回目は少しおとなしかったけれども、2回目はもう少しいろいろ言うのではないかと期待したいのですけれども。

(木村) 懸念は分かるのだけど、どうしたらいいかを言ってほしいのです。そうしないと決められないのです。

—— うーん。先ほど木村先生が言った20分、20分、15分のほうが私の好みだということです。でも、議論の時間が少なくなるということが一番の懸念だとしたら、それは仕方がないことなので。

(木村) アンケートにはそれが一番書かれているので。ルールにしばられて話し合いの時間が足りないと書かれているわけですから。

—— 次回は、「今日は結構意見が言えた」とか、「いろいろな意見が出た」と思ってもらいたいですよ。

—— 去年も時間配分は同じでしたっけ？

(木村) これはずいぶん長いです。去年の第2回は、クレームに対する対応に半分くらい使いましたから。

—— 第1回の時間配分は似たようなものだったのに、どうして去年は意見があんなにブロードに出て、今回はあまり出ないのだろう。ルールの説明を丁寧にしたことが、ルールの縛りを意識させちゃったのかな。

(木村) あまり関係ないと思いますよ。

—— 60分の間どこかに休憩を挟んでいただいたほうが、頭が柔らかくなるのではないのでしょうか。

(木村) 60分の中に？ この後休憩が15分入るのですよ。

—— なるほど。でも、一気に 60 分やるのですか？

(木村) はい。まあ、お茶とか、そういうのは適宜取ってもらっていいですが。

そういう意味では、第 1 期の会場は、真ん中にお茶コーナーを設置できて、便利でしたね。今回は真ん中の B 班は取りに行きにくいですからね。

—— 今度はスクリーンなしですか？ では、スクリーンのところにお茶を置いたらどうですか？

(木村) ただ、私の机がありますけど (笑)。

さて、ということで、

—— 3 番で、それぞれコメントを言っていったときに、サブファシリテーターがキーワードを書くでしょう。付箋がすごく増えるのではないかという気がするのですが、入りますかね？

(木村) 模造紙を 2 枚にしましょうか？ 1 枚目は半分に切って、4 番まで。2 枚目で 5 番以降の壁について。そのほうがいいですか？ 確かに、これだと狭いかもしれない。

—— 3、4 番でたくさん出てくると思うのです。

(木村) では、2 枚使うことにしましょう。

—— 最初の 1 枚は 2 分割ということですね？

(木村) はい。まあ、その日の朝に作ればいいと思うので、そのときにまた指示します。

で、3 番、4 番はゆっくりとやってもらうようにしてください。結構大変だと思うので。

—— 5 番は「市民と専門家の間にある壁とは何か？」について話すことになっていますが、タイトルの「壁の違いとは？」と微妙にニュアンスが違うじゃないですか。最終的に、タイトルにある「壁の違いとは？」というところまで結び付けていくのか、壁とは何かで終わらせるのか、どちらですか？

(木村) テーマ名は「考える壁の違い」で、文意を読むと、要は認知ギャップの話をしていて、「壁の違い」はギャップの話なのです。だから、お互いがお互いに自分で閉じこもって壁を作っている、という話をしていたりする。それが専門家のイメージと市民のイメ

ージという、お互いの中で作りあっている壁、というイメージなのです。壁は2枚あると言っていましたよね。その2枚の壁を前半で出してもらって、最終的には壁は1枚だけではなくて2枚構造で、こういう差がある、という議論になってくると思うのだけど、もしかすると、市民のほうには壁がないという話になったら1枚になる。なので、大テーマは「壁の違いとは？」にしているけれども、5番では、「壁は何なのか」ということを考えてもらおうかなと思っているのだけど。

最初は、5番にも「一般市民と専門家が考える壁の違いとは？」ってそのまま書いたのですが、なんか、分かりにくいのですよ。

—— いや、私も分かりにくいと思うので、テーマ名も変えるとか、それは駄目なのか。

(木村) そこは変えられません。ただ、これはあくまで大テーマかなと思って。この言葉は難しいですもんね。いろいろなことを含めていますよね。

—— そうすると、5番のとき、「壁とは何か」からずれそうになったときは、サブファシリテーターがしっかり止める？ 止める必要はない？

(木村) それはファシリテーターがやることです。

—— でも、ファシリテーターが、この「進め方」を見ないで進めたら、「違いとは？」で進めようとするのがありえるわけじゃないですか。

(木村) まあ、「違い」について話してもらっても構わないですが。違いが壁になっているのかも、という話だったらいいのですから。

(前参加者) 「違い」がいわゆるギャップになっている。それが出てきたほうがいいような気がします。

(木村) ええ、むしろそのほうがいい。お互いがお互いに壁を作って、2枚壁になっているのですよね、という意見が改めて出てきてもいいし。

—— 難しいですね。そのときのメンバーによっては、そのところがうまく分からないまま、なんとなく話し合うみたいな感じになるかもしれないですよね。ファシリテーターがはっきり分かっていたらいいけれども、ファシリテーターが分からないまま、参加者も曖昧模糊とした感じで行けば、あいまいな話し合いになる。

(木村) 4番までは結構きっちりした話し合いができると思うのです。5番で一気に難しくなってくる。そのときに、このテーマ名を出していきなり話せといわれると意味が分からなくなると思って、ちょっと変えたんです。せめて壁の議論ができて、その上で、もしかしたら、2枚壁でしたということが分かり、その壁の間にはこういう差がありますという話までできればいいなど。

(前参加者) それが出てくるといいですね。

(木村) まあ、一番の決め手は、こちらのほうが答えやすい、考えやすい、質問としてきれいというのがある、こういうふうになりました。

—— ある程度「壁とは何か」のところで意見が出てきたら、もう1回このテーマをよく読んでみましょう、みたいな話をしてもいいのですか？

(木村) そうですね。「さて、2枚目に移るにあたって、もう一度目的をさらい直してみましようか」というのを、サブファシリテーターさんに言ってもらうのがいいかもしれないですね。

—— 2枚目の模造紙には、どんなテーマ名を書けばいいのですか？

(木村) 大テーマは両方に書いておきます。その上で、2枚目には、「市民と専門家の間にある壁とは何か」と下に書いておきます。併記っぽく書いておいて。それで、ギャップのところも押さえたし、壁は何なのかというの押さえれば、全体を見れば、「壁の違い」というのがなんとなく見えてくるのではないかと、という設計です。

—— 「壁の違い」というのは、青い付箋と赤い付箋の違い、という認識でいいのですか？

(木村) いや、違いますよ。

—— 「違い」のイメージが分からないのですけれども。

(木村) A班で出ていたのは、市民側から作っている壁と、専門家側から作っている壁が違うのではないかと、という議論ですよ。

—— で、その違いにも全然気がついていない。

—— でも、グループワークで気がついたから、じゃあその違いは何なのか、ということがテーマ案になったのですよ。

(木村) それを汲むと、専門家のイメージの中でどういう違いがあり、市民のイメージでどういう違いがあって、それが両方とも相互作用して、実際には壁になっている、そういう構造なのではないか、ということをお話したいのだと思います。

—— その壁が、こういうコミュニケーションをすればなくなるかもしれない、というところまで行ったらすごいですよね。

(木村) まあ、それを誘導したら駄目ですけども。

(前参加者) それをお互いに感じるためのフォーラムですよ。

(木村) そうですね。そのものずばり出てきてしまったので、次に何をしたらいいのかがよく分からない。

—— 今年の参加者の皆さんのムラに対するイメージは、この模造紙を見ると、組織的な何か壁があるというイメージを持っている人が多いように思えます。知識で壁ができていいのか。用語、言葉づかいで壁ができていいのか。あるいは、組織要因で壁ができていいのか。いろいろな切り口があると思うのだけど、私は、なんとなく、参加者の人たちは、組織要因重視型の人たちが多いような。

(木村) なるほど。あとはお金ですね。

—— ええ、ゲゼルシャフトなんて持ち出す人がいるということは、まさに利益集団、組織とか利益とかそういうイメージを非常に強く意識している。興味深いです。

(木村) では、ベースはこんな方向でやっていきます。細かいところは変わるかもしれませんが、それはまた直前にお話ししたいと思います。

—— 今回のほうが落ち着いてできそうな気がしてきました。

(木村) 今回は、そんなに難しくないと思いますので。

では、F4-4に戻って、最後に全体の流れを確認していきたいと思います。

次回も11時から最終打ち合わせをします。今回は、先に会場準備をして打ち合わせをし

ていたら、打ち合わせ中に参加者の方が来られてしまったので、先に打ち合わせをしてから会場準備をしましょう。

—— それはいいかもしれないのですが、模造紙にタイトル等を書く時間を確実に確保したほうがいいと思います。

—— 去年は、会場設営のときに各グループで書いていたのですが、今年は忘れていました。

—— いや、忘れていたというか、単純に書く時間がなかったのですけど。

(木村) 会場準備は別に受付が始まってからでもできるので。要は、早めに来られてしまっても、締め出すのではなく、入ってもらえる体制を作る。前は、中に入れるとネタバレになってしまうので待ってもらいましたが、今回はそれをなくすために、先に打ち合わせをして、会場準備をして、という感じにしたいと思います。

12時半に受付開始と連絡をしています。

竹中君、くじ引きはよろしくお願いします。ファシリテーターが2名、発表者が4名になります。

(竹中) はい。今のところ欠席の連絡は？

(木村) 今のところは市民1名です。

13時から開始です。開始前に、総合ファシリテーターから記録について確認をお願いします。

13時から自己紹介をしますが、前回専門家1名が欠席しています。なので、その方には、紙を持ってもらって、第1回と同じように、フォーラムに期待することを話してもらいます。他の方は、第1期と同じく、前回から今日にかけてのお話をしてもらおうという形にしたいと思います。前回欠席された方は1分ですけれども、他の人は30秒くらいで話してもらいます。

その後、前回の振り返りを10分取っています。F4-6を使ってやりますが、少し皆さんに眺めてもらう時間にして、その後、次回のテーマを最後に決めましたけれども、A-2になりました、そのくらいの振り返りにしようと思っています。

それから、ホワイトボードに貼っていた4枚の紙については、最初に話そうと思います。

ここまで、イントロダクションが25分です。

その後5分で、私が、グループワーク1の進め方を説明します。F4-4ではグループワーク1は45分となっていますけれども、60分のバージョンに変わったので、ここは60分で

す。ちなみに、グループワーク 2 が 45 分から 30 分になって、ここで帳尻が合います。

グループワーク 1 の後、全体共有を、1 グループ 5 分でやります。このときに、総合ファシリテーターから、付箋を持って全体共有に臨んで、その後質問を作るので、気づいた点はメモをしておいてくださいとお願いをしてもらうことになると思います。それから、今回は発表者を 2 名ずつにします。質問はこの場では受け付けないのですが、発表者 2 名にまず出てもらって、その 2 名に話してもらいますが、もし片方の人しか話していなかったら、総合ファシリテーターから、もう 1 名の方から何かフォローがありますかと振ってもらって、それで終わりにするという感じにしたいと思います。そうでないと、1 人が勝手に思い込んで話してしまうかもしれないという危惧もあったので。

この後、質問作りの進め方を 5 分間私が説明をしますけれども、この間にサブファシリテーターは意見に番号を振っていきます。

—— 1 からですか？

(木村) 今回は、1、2、3 でいいと思います。何番に対して質問とか、そういうことが書きやすいように、何でもいいので番号をバーツと振っていってもらうことになります。

(総合 F) すみません、グループワーク 1 が 60 分になった場合、総合ファシリテーターのアナウンスは 15 分前でいいですか？ 半分くらいで言ったほうがいいということはないですか？

(木村) 20 分前にすると、ちょうど「壁は何か」という議論に入るくらいのタイミングなので、20 分前と 5 分前にしましょう。

今回は、休憩と質問作りで 15 分取っています。その間に、去年と同じく、各グループのところに行って、手持ちの付箋に質問を書いて、テーブルの模造紙に貼るという作業をやってもらって、終われば休憩ということで、15 分間取っています。15 時 5 分に終わるということでしょうか。

次に、グループワーク 2 の進め方で 5 分間。

30 分のグループワーク 2。

その後、回答の紹介を 10 分間ということになります。

次のテーマについて、第 2 回もちゃんと話したいと思います。グループワークとしては 15 分を取っています。前回と同じなので、そんなに説明もいらなかなと思います。前回 15 分くらいで終わっているの、このくらいの時間でやることにしたいと思います。

最後は、アンケート記入と、1 人 30 秒で振り返り。最後に研究代表者から一言があって、フォーラム終了が 16 時半ということです。

そして、17 時までには、去年と同じく、お茶のみ場を設置しようと思います。出口に近い

ところ、だから C 班のテーブルですかね、そこにお茶を持って行って、少し話ができるようにしたい。そして、17時から撤収作業が徐々に入って、最後に反省会をして、18時に完全撤収というスケジュールでやっていきたいと思います。

—— 次回のテーマについては、また参加者から付箋に書いてもらって、グループで話し合う、それは模造紙に貼らなくていいですか？

(木村) 模造紙は、グルーピングをする土台に使ってもらえばいいと思います。(ホワイトボードに) 貼る必要はないと思います。できた 2 つのテーマ案を出してもらうので。落書き帳ぐらいのつもりで使ってください。

—— 次回のテーマもなりゆきですか？

(木村) なりゆきです。振り返りのときに、決まったテーマだけではなくて、前回落ちたテーマ案も紹介するので、そういったことも踏まえて、次回はどうしましょうか、という流れにしようと思います。まあ、もう 1 回やってみて、どうなるか見てみようと思います。「原子力発電の必要性」辺りが出てくるのではないかという気がしているのですけれども。

あとの資料は、特に変えているところはありません。グループワーク 1 を 60 分バージョンに変えて、もう少し私のほうで見ながら決めていきたいと思います。

ということで、一通りですが、大丈夫でしょうか？ 14 日の 11 時から直前の打ち合わせをしますので、そのときにおさらいをしたいと思います。よろしくお願いします。

以上になりますが、よろしいでしょうか？

—— 模造紙は 1 班に 4 枚必要ということですか？

(木村) はい。4 枚だから、5 枚くらい用意しておいてください。予備を使うかもしれません。

—— スクリーンはいらないですね？

(木村) スクリーンはいらないです。

3. その他

(木村) では、これで第 4 回の研究会を終わりにしたいと思います。今週の土曜日、14 日が第 2 回のフォーラムです。6 月 24 日の 13 時からが次回のフォーラム研究会ですので、またよろしく申し上げます。どうもありがとうございました。

以上